

令和3年度第1回 小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会 議事録

|      |  |
|------|--|
| 日 時  | 令和3年11月18日(木) 13時30分～15時30分  |
| 場 所  | 小牧市役所 本庁舎 6階 601会議室  |
| 出席者  | <p><b>【委員】(名簿順)</b></p> <p>長岩 嘉文 日本福祉大学中央福祉専門学校 校長<br/>         関谷 みのぶ 名古屋経済大学教授<br/>         前川 泰宏 小牧市医師会代表<br/>         佐々木 成高 小牧市歯科医師会代表<br/>         浅井 宏昭 小牧市薬剤師会代表<br/>         田中 秀治 小牧市社会福祉協議会代表<br/>         木村 正尚 小牧市民生・児童委員連絡協議会代表<br/>         米井 ちさと 春日井保健所代表<br/>         三輪 美紀 小牧市介護支援専門員連絡協議会会長<br/>         中内 貴司 小牧市介護保険サービス事業者連絡会<br/>         小規模多機能型居宅介護部会長<br/>         江口 はづき 介護施設代表<br/>         安岡 穰 小牧市介護保険サービス事業者連絡会 訪問看護部会代表<br/>         四宮 貴美子 小牧市内地域包括支援センター管理者代表<br/>         奥村 孝治 春日井公共職業安定所代表<br/>         長田 孝子 小牧市老人クラブ連合会代表<br/>         倉地 芳宜 小牧市区長会連合会代表<br/>         桑山 美知代 公募委員<br/>         小林 静生 公募委員</p> <p><b>【欠席委員】</b></p> <p>加藤 三紀子 ボランティアグループ日向ぼっこ代表<br/>         水谷 幸一 連合愛知尾張中地域協議会代表</p> <p><b>【事務局】</b></p> <p>伊藤 俊幸 福祉部長<br/>         松永 祥司 福祉部 次長<br/>         西島 宏之 福祉部 地域包括ケア推進課長<br/>         平手 明仁 福祉部 介護保険課長<br/>         永井 政栄 健康生きがい支え合い推進部<br/>         健康生きがい推進課長兼文化・スポーツ課長<br/>         泉 重雄 健康生きがい支え合い推進部保健センター所長<br/>         社本 里美 福祉部 介護保険課保険資格係長<br/>         倉知 佐百合 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係長<br/>         佐沢 新悟 福祉部 地域包括ケア推進課福祉政策係主査</p> |
| 傍聴者  | 1名   |
| 配付資料 | <p>資料1 小牧市高齢者保健福祉計画推進委員会設置要綱</p> <p>資料2 第8次小牧市高齢者保健福祉計画施策管理シート</p> <p>当日資料 配席表<br/>         委員名簿</p>   |

## 1. 開会

### (1) あいさつ

- ・伊藤福祉部長あいさつ
- ・長岩会長あいさつ

## 2. 議題

### (1) 第8次小牧市高齢者保健福祉計画の進捗状況について

- ・事務局より、資料2：第8次計画の施策管理シートを用いて、説明。
- ・質疑、主な意見は以下の通り。

## □ 第4章 健康づくりや介護予防の推進と活躍の場の充実

### 長岩会長)

- ・ 11 ページの老人福祉センターの利用者数の減少、3分の1まで減っているというのが象徴的だが、令和2年度は外出しない、集まらないというメッセージが強く出ていたため、介護予防を含めて、かなり制限を受けたということがお分かりいただけると思う。
- ・ その一方で12 ページにあるボランティア勉強会の参加者は増加しており、開催回数を年2回から年3回へ増やしたことも要因かもしれないが、勉強会のテーマがコロナ禍における体の健康と精神面の健康であり、時機を捉えたため、結果的に令和元年より集まっているというもの中にはある。

### 木村委員)

- ・ 10 ページの老人クラブ会員数の減少について、老人クラブの魅力をどのように発信し、加入増につなげるか。高齢者といっても定年退職を迎える方が65歳以上の方も多く、老人クラブに入会して何ができるんだろうと。単に老人クラブへ入会を勧めるだけでは魅力が伝わりづらいことから、少し考えていかないと減少し続けてしまうおそれがある。

### 長田委員)

- ・ 私の所属する老人クラブも減少している。
- ・ ここ1、2年、ある日突然、夕方まで元気な方で夜中に亡くなっていたという方が2、3名いる。
- ・ 減少することの対応を今すぐというのは難しい。老人クラブは何の目的で活動しているのか、老人クラブとは何なのかなどを明確にしないと、これからの若い人が入会しないと考える。
- ・ そのため、入会者を増やすためにももう少し具体的なことを考えるべきだと思い、老人クラブだけでなく、市が目標を立て、実現に向けて老人クラブと協力しながら進めるべきとも考えている。

### 長岩会長)

- ・ これは老人クラブに限ることではなく、人が集まり活動するということ、場合によっては労働組合なども含めてなかなか難しい時代だというのは否めない。
- ・ 10 ページの今後の取組で、方針は減少に歯止めをかけること、また、県下では成功事例があるのではないかとということで研究を進めることで魅力ある老人クラブ活動への転換に努めるということ。
- ・ 一義的には老人クラブの事業ではあるものの、計画上は全て老人クラブに任せるということではないと思うが、事務局は何かアイデアがあるか？

### 事務局)

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響による活動の制限が新規の会員数が増えない要因の一つであるということと、話があったとおり、死亡であったり、高齢という理由から会員数が減少している

ことが考えられる。

- ・ 昨今の傾向で、定年延長や再雇用により仕事を継続している方が少なくないこと、インターネットの普及などによって、自らがサークル活動や講座の情報を得て、趣味や仲間づくりを形成される方も増えているのが現状だということを実感している。
- ・ 今後については、この記載のとおり、魅力の部分をもどのように発信していくかということ、その魅力について、先進地や他市の事例であったり、その活動内容などを調査し、老人クラブの皆様方とも情報共有しながら進めていくことが必要だと考える。

#### 米井委員)

- ・ 健康診断、特定健診、特定保健指導、この地域だけでなく他の地域でも、特に保健指導は直接面接で指導を受けることが難しい状況にあるため、受診率を上げるのは難しいと改めて感じた。
- ・ 集合や面接という形で実施できないという状況があり、インターネットを使用する取組など、様々な工夫をしているところもあると思うので、多様な形で実施していければと思う。
- ・ 12 ページ、ふくし座談会について、避難行動要支援者台帳を活用した見守り活動の普及を図るといふ、これはとても大事な取組だと思う。
- ・ 保健所が関わっている方でALSという難病で筋力がだんだん衰えていくことによって体が動かなくなり、人工呼吸器が必要となる方もいる。そういった方の場合、避難所があっても、避難するということがまずできない、そういった方がこの台帳に名前を掲載し活用したり、見守り活動の対象にすることはとても大事だと思う。
- ・ そういった方を把握し、月日が経過していく中で身体の状態の変化や要支援者台帳の見直しなどもやっていく必要があると考える。

#### 長岩会長)

- ・ 避難行動要支援者台帳に登録する方は、主に要介護や障害者手帳をお持ちの方で、難病の方もいるのか。

#### 事務局)

- ・ 本市の対象者については、介護保険における要介護3以上の認定を受けた方、身体に障害のある方で身体障害者手帳1級から3級をお持ちの方、知的障害のある方で療育手帳A、Bをお持ちの方である。また、自力での避難が難しい方でひとり暮らしの高齢者及び高齢者のみ世帯の方もこの台帳の対象者である。難病の方ということでは対象にはならないが、例えば身体障害者手帳をお持ちの方が難病をお持ちの方ということになると難病の方も対象になるという考え方である。
- ・ 民生委員や区長に情報提供の同意をされた方が避難行動要支援者台帳に登録し、情報提供する形となる。

#### 佐々木委員)

- ・ オーラルフレイルの第4章の2について、口腔ケアの達成状況は未達成だが、新型コロナウイルス感染症の影響が非常に大きいため仕方がないことかと思う。全体的に市民に理解しやすいものは達成できているという印象である。
- ・ 口腔ケアは新型コロナウイルス感染症の重症化予防にもなるというエビデンスがそろそろ出てくる頃かと思う。また、インフルエンザの重症化予防のものは以前からある。それでも口腔ケアをしている市民の割合がなかなか上がってきていないというのは非常に残念である。
- ・ 何百人を対象としたかは不明だが、歯磨きに自信がある人にどの程度磨けているかと調査をした事例があった。結果は達成できた人はいなかった。自分では磨けていると自信のある方でもできていないというのが現実である。そのため、口腔ケアは専門的に診ていく必要性が非常にあると考える。
- ・ 新型コロナウイルス感染症について、ニューヨークタイムズに去年の5月に掲載があり、1番危

険な職業が歯科医師、2番目が歯科衛生士、という非常に悲しい報道があったが、去年から1年半の間、全国で患者さんと歯科医師の間で感染したというのは、歯科医師会で把握しているのは1件だけで、それ以外は1件もない。患者と歯科医師の間で感染したというのは、1件しかないもので、皆さん安心して専門的な口腔ケアに取り組んでいただきたい。コロナ禍だから、重症化予防のため、強くそう願いたいと思う。

#### 長岩会長)

- ・ 8次計画で少し強制的に表現したところだと思うが、口腔ケアをしている市民の割合、フレイルチェックを実施したサロン数ともに未達成ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響を受けたとみても比較的高い数値かと思う。令和元年よりは減少しており、令和2年度の見込値には届かないが、コロナ禍において頑張っている項目でもあるという印象を受けた。

### □ 第5章 生活支援と支え合いの地域づくり

#### 長岩会長)

- ・ 地域包括支援センター関係について、集合形式の会議がしづらくなつたため、件数や回数は減少しており、それはある意味仕方がない。その反面、17ページのこまきつながるくん連絡帳の活用実績は増加している。集まらない分、ICTを使用した形になったのかという印象を受けた。
- ・ また、関連して、配食サービスの利用者が増加している。27ページの食の自立支援サービスの利用者については、令和2年の見込み、令和元年の実績と比べても100人程度増加しており、コロナ禍という象徴的な部分だと思う。
- ・ 18ページにある在宅の看取りの方が増加している。在宅で看取りを受けた市民の数が、令和元年、令和2年と100人程度だが、実績は287人となったのが目立つところである。取組み状況では、在宅医療の診療所が新たに開院されたことで増加したという分析があるが、こういう理解でよいか。

#### 安岡委員)

- ・ 病院に入院すると全く面会もできないというところが増えており、在宅で最期の部分をご家族でという方が大変多くなっている。

#### 四宮委員)

- ・ 15ページの総合相談件数は減少しているが、コロナ禍や社会情勢の変化ということもあり、1件の相談内容が複雑化し、権利擁護に至るまでの相談も含めて、かなり内容が濃いものが多い。
- ・ コロナ禍であっても相談ができる体制づくりを整えるため、各包括支援センターもなるべく出向けるところは出向き、地域の民生委員さんとも協力しながら訪問するような状況である。
- ・ コロナ禍で外出機会、活動量が減り自宅で過ごす時間が増え、例えば認知症の方への対応の仕方が分からなくて、ご家族内で虐待につながってしまうというケースも数件あり、虐待についても増えつつあるという現状である。

#### 倉地委員)

- ・ 区長会では、いろんな行事がほぼ中止となり、会議も書面議決がほとんどのため、行事へ参加することや会議の場へ出席するということがあまり無い状況であった。最近、ようやく対面形式の会議が増えたので、知識が身につくようになったと感じる。

#### 長岩会長)

- ・ 社会福祉協議会も大変な苦労があったのではないかと思う。サロンの数は78箇所と減少していないものの、サロンの活動自体を自粛せざるを得ない部分があり、活動内容についても検討されたと思うがいかがか。

#### 田中委員)

- ・ サロンは現在 79 箇所あるが、令和 2 年度についてはほぼ活動ができなかった状況である。
- ・ ようやく、11 月には 65 件が再開でき、12 月から 1 月にかけて再開する予定のサロンも出てきている。また、12 月に新規のサロンが 1 箇所増えるため、地域活動が少し活性化されてきたかという印象である。
- ・ ただ、運動量の低下、認知症の進行など、つながりづくりができなかったということは、社会福祉協議会として非常にもどかしく感じていた。なかなか手を出すことができない、地域の方に声をかけにくいという現状が常にあったため、集まらなくてもつながれるような活動がないだろうかと思案している。
- ・ 本日の資料の中に a l k o の実績が非常に高い数字が出ており、そのような個人でも取り組める活動と、それをサロンや地域とつなぎ合わせられるような活動ができないかと少しチャレンジしているところである。

#### 長岩会長)

- ・ コロナ禍で、様々なところで分断が起こったということを知った。サロンが象徴的だが、地域活動においても、こんな時期にサロンを開催している場合じゃない、自分たちが感染するリスクを考慮して開催を見送る団体もあれば、反対にこのようなときだからこそ、工夫して開催すべきだという意見もある。元々は同じ方向を向いて活動してきた方々で意見のズレから分断が生じてしまったという話を他方で聞いたことがあったため、なかなか厳しい、難しいと感じている。

#### 小林委員)

- ・ 私が実際に活動している認知症カフェは居場所づくりを非常に重要だと考えているため、コロナ禍で活動ができないときには、参加者のご自宅に訪問し、お元気ですかと声をかけるといったような活動をしており、不在の場合には、お邪魔しました、お元気ですかというようなパンフレットを郵便ポストへ入れていた。その結果、現在再開している認知症カフェには、思った以上に多くの方に参加していただいている。
- ・ 行政に確認したい点として、コロナ禍だから中止し、中止した分、少し業務が楽になるのであれば、そのようなときにこそ、何か行政としてやれることがあるのではないかと思う。既にやっただけでいることと思うが、普段とは別の切り口から住民にサービスを提供するということが大事になってくると考える。

#### 長岩会長)

- ・ 行政で地域活動をバックアップしたようなことはあるか。オンラインや取り組みやすい環境づくり、アクリル板の要望があれば提供したなど、物の支援だけでなくもよいが、何かあるか。

#### 事務局)

- ・ 昨年度は市民生活部防災危機管理課より新型コロナウイルス感染症対策に必要な消毒液やマスク、手袋などを配置した対応は取らせていただいた。
- ・ 先ほどからの話で手が出しにくい中で、集まって何かを実施すると考えた時に、感染のリスクを考えると非常にもどかしく、難しい局面である。初めて体験することのため非常に難しい状況であったが、それでも小林委員がおっしゃったように何かできないかというところで、例えば体操の動画を撮影してそれを流すような活動や、少し地域という概念とは異なるかもしれないが、寿学園も開催できないのであれば皆様方にお便りを出すなど、少しでも心の結びつきができるのではないかということを考えて実施した。決して十分とは言えないかもしれないが、できることを皆で考え、手がけていたと思う。今後もこのような状況にいつ陥るか予測できないため、そこに備えてできる限りのことをしていくよう努めていきたいと考える。

#### 長田委員)

- ・ 認知症の件について、愛知県認知症希望大使は男性の方と女性の方が 1 人ずつおり、現在、認知

症は怖くないですよというフレーズで様々なところで講演を行っている。それについて、小牧市はそのような方が講演をされる予定はないか。

事務局)

- ・ 今のところ予定はない。今後、情報を収集し検討をしてみたいと考える。

長田委員)

- ・ 認知症の当事者が、皆さんの力になりたいと思い講演されているので是非1度講演を聞きたいと思う。

長岩会長)

- ・ 当事者の方の話聞くのは、実体験の話もあるので非常に現実味があり効果的だと思う。少し前から若年性認知症の当事者の方が自らの体験を話すというのは広がってきているが、ご年配の当事者の方がどのような講演をされるのか。

長田委員)

- ・ その方も若いときに発症しているらしく、当時は原因不明だったが、今になって認知症と分かり、それからご自身で講演をするようになり、愛知県認知症希望大使として女性と男性が選ばれたということである。

## □ 第6章 認知症施策の推進

長岩会長)

- ・ 31 ページの認知症サポーターの講座は、オンラインを導入して令和元年よりも増えたという報告と、新規事業として35 ページの認知症高齢者等あんしん補償事業は個人賠償責任保険の加入者が148名というところが印象的である。

小林委員)

- ・ 35 ページに認知症カフェ設置数が8件、見込値とある。増えているように感じないが、篠岡地区には4つの認知症カフェがあり、実際に開催しているのは2か所、半分である。サロン活動も含めてだと思うが、この時期において、認知症の方の居場所づくりという意味では本当に貴重な場所だと感じており、各カフェが様々な対策や配慮、工夫をしながら開催していただけるとありがたい。

三輪委員)

- ・ コロナ禍でデイサービスをお休みする方もおり、やはり認知症が少し進行している方がいるという印象である。

佐々木委員)

- ・ 認知症の統計的な話だが、歯がたくさん失われている人のほうが多い。また、失われていても噛み合わせがしっかりしていればなりにくいという研究が多くある。
- ・ 欧米の研究だが、歯周病菌のポルフィロモナス・ジンジバリスというPg菌というのがあり、これが各種認知症の発症の大きな因子ではないかということで、拮抗薬を開発しヨーロッパとアメリカで600人ほど治験中である。その結果が出てくれば1つの大きな転機になると思う。認知症の予防で口の中を診ていただくと、この人は将来認知症になる可能性が高いなど、そのような予測が多少できる。
- ・ また、ネグレクトのような話があったが、学校の歯科検診時に低学年で既にう蝕が多発している。最近では虫歯は少ないが、う蝕はネグレクトの可能性が高く必ず教師に報告している。
- ・ おそらく高齢者の方においても、同じように口腔ケアができていないのは、ネグレクトに近いことがあるのではないかと思う。

四宮委員)

- ・ 今のお話で、全身、全てのことにとても大切な口腔ケアであるが、なかなかそこまで介護をするご家族の方も手が回らない状況がある。ひいては認知症にも影響しているのか、はっきりとは分からないが、口腔ケアの大切さは日々介護をしている方、施設の方、ご家族も含めて、本人も大切さを意識するようになっていくべきだと感じた。

## □ 第7章 質が高く安定した介護保険事業の運営

### 長岩会長)

- ・ 37 ページの介護サービス相談員は、施設訪問をということだが、家族の面会でさえ断る状況のため昨年度は難しい状況であった。また、幾つかの研修についてはオンラインで実施することで参加者が増えたというところである。
- ・ 40 ページの適正化については、訪問点検は難しいが、書面での点検についてはある程度実施できたということ。
- ・ 42 ページの介護サービスと介護基盤の整備については、この資料からすると小牧市内は大分充足してきたというふうにも捉えることができなくもない。

### 中内委員)

- ・ 介護展について、昨年度は中止、今年度は延期の末、中止としたが、今年度は代替案を検討している。市役所本庁舎の1階ロビーにパネル展示という形で各事業所、部会の取組状況などを広く市民の方に知っていただくのはどうかという取組みを検討している。
- ・ 介護保険サービス事業者連絡会の皆様がこういった機会を大事にしていきたいということで、新型コロナウイルス感染症の影響により中止というだけでなく工夫をして、形を変えて開催できないか、そういったところで私どもも何かできることを工夫している。

### 江口委員)

- ・ 相談員さんの受入れは毎年していたが、昨年はコロナ禍のため受入れをしなかった。現在もご家族の面会自体を禁止しているが、国が面会緩和の記事を掲載したこともあり、ご家族からは面会がいつ再開できるのかという声をいただいている。
- ・ 4月に向けて、どのようにして面会を再開するか、感染のリスクを考えると慎重にならざるを得ない部分かと思う。施設によって考え方が異なるかと思うが、楽しみにされている方もおり、お話をゆっくりすることができない中、来ていただくことでお話ができるという楽しみがあるのは事実である。どのような形で受入れができるのかというのをまた考えていきたい。
- ・ 私どもの法人では複数の事業を実施しているが、閉所されたところの採算性を考えると仕方がないとも思う。複数の事業があれば採算が取れなくて他の事業でカバーできるという利点はあるが、1つの事業だけを行うと考えたときには、稼働率、収益等はかなり下がった。

### 長岩会長)

- ・ 割と大きな事業所へ勤めていた方が独立し、小さな事業所を経営している方が小牧に限らずあると思うが、そのような事業所が今回非常に大きく影響を受けたということか。

### 江口委員)

- ・ 介護支援専門員が減少しており、苦慮している。更新研修が他県ではオンラインが多い中、愛知県は集合研修をという形で開催されていた。制度の兼ね合いもあるが。
- ・ 国が求める基準に対して人を配置すると人件費がかかり、採算が取れないというのも大きいと思う。また特養においても、新規入居の方が決まらないという現実があり、面会が制限されているため在宅で看たいという方も増えている。

### 奥村委員)

- ・ 最初のほうにあったシルバー人材センターの会員が減少していることについては、高齢者の方も

就業意欲が高くなっており、ハローワーク春日井では、特に男性の方で60歳以上の求職者、仕事を求めている方はかなり多くいる。そのため、シルバー人材センターの会員が減少しているというところもあるのかもしれない。

- ・ 全体で言えば、前年度から比較して、4月以降は仕事を求めている方が少しずつ減少しており、逆に求人、企業のほうが人を求めているのは少しずつ増加している状況にある。有効求人倍率は全国と比較すると、この9月末で全国が1.16倍、愛知県が1.26倍である。ハローワーク春日井の管轄では、全国と同じ1.16倍ということだが、前年度は全国よりも下回っていたが、4月以降徐々に回復し、全国と同じ倍率ということのため、この地域は他の地域よりも人を求めている企業が増えているということが言える。

#### 桑山委員)

- ・ 新型コロナウイルス感染症は高齢者福祉に多大な影響を与えており、それはまだ継続しているということを実感した。
- ・ なるべく広報紙を読むように心掛けているが、今日の委員会でもまだまだ知らないことがあり、例えばa1k0というアプリ、いきいきポイントまいか、言葉としては何となく理解しているが、市民の方は詳しく分かっていないと思うので、そういった意味でもホームページだけでなく、折に触れ広報紙等でPRしていくことを、誰一人取り残さないためにもやっていただきたい。
- ・ それから、去年と今年できなかつた分、来年度は本当によくなっていることに期待したいと思う。

#### 浅井委員)

- ・ 現状が把握できたというところがあり、最近は新型コロナウイルス感染症の影響も少し落ち着いているようにも見えるが、またいつどうなるか分からないというのもある。
- ・ 2年間に渡り、生活の変更を余儀なくされた。元に戻ったと誰かが宣言するわけでもなく、生活様式や行動が元通りということはないと考えた方が良くと思う。今までのやり方に戻るという方向で考えるのと並行し、集合しなくてもできる方法など、対策というのを考えていかないとまくいかないものだと感じた。

#### 長岩会長)

- ・ 取り入れたオンラインや動画といったものを引き続き実施するのか、全部対面に戻すのかというあたりの判断もあるかと思う。動画に取り組んでいるところはたくさんあるが、高齢の方は動画になかなかアクセスできないというのがあった。

#### 前川委員)

- ・ 全体的に新型コロナウイルス感染症の影響により、できなかつたのが多かつた。オンラインやアプリなどで講習を実施するスキルは上がったという印象である。
- ・ 私自身、ウェブ会議のアプリを使用した会議で、そのアプリを使用したこともなく、できるかどうか不明な状況である。私も使用したことがないので、ウェブの講習会と言われても困る。ホームページを開いて動画閲覧程度ならできるが、ウェブ会議のアプリを使用した講習会や研修は私も分からないので、私よりも年配の人たちは分からないことも多いのではないかと思う。

#### 関谷副会長)

- ・ 全体を通して、去年から新型コロナウイルス感染症の影響で、昨年度についてはよくわからない中、皆が手探りでやってきて、今年度は少し対策を講じたりと、また人々の価値観は一定ではないため、難しいところはあるが、昨年のように過ごしてはいけない状況で、どのようにしていくかが求められるようになってきたと感じている。
- ・ 先ほどもウェブや対面という話もあつたが、それぞれの良さがある。この計画に関しても、計画時の目標値を達成することはもちろん大事であるが、達成できなかつたとしても、例えば違う方法でその本質、目標を立てた狙いが達成できたかということも考えて判断するべきかとも思う。

なかなかどう判断していいのかわからない、新型コロナウイルス感染症の影響でという一言で片づけられない部分も出てくると思う、これから今度の3年間の数値というものを評価していくところが正念場になるのかと感じた。

#### 佐々木委員)

- ・ 会長、副会長にお聞きしたい。いわゆるリモートやウェブと対面した場合の受講者の感覚というか、そのような研究データはあるのか。
- ・ 感覚的としては対面のほうが非常にインパクトは強いと思うが、ウェブで受講しているだけだとよく分からないというはあると思う。どの程度の効果、違いがあるのかというのをぜひ教えていただきたい、何か調べたものがあればご教示いただきたい。

#### 長岩会長)

- ・ 研究データがあるかどうかは不明だが、自分の感覚では、意欲の高い人はどちらでも効果があると思う。ただ皆が全てそうではないため、そういう点でいうとオンラインには限界があると思う。同じ教員でもオンラインにすることで、すごく質問が増えたという方もいるが、私はそのような実感はない。
- ・ 研修会においても講義を聞くのみの研修会は減少しており、参加型の研修が多い。これをオンラインで対面と同レベルで開催するのは非常に大変だという印象である。

#### 関谷副会長)

- ・ 受講者の意欲次第かと思う。見る、聞くだけでよいものと主体的に参加するというもので大きく異なり、ウェブの時にもグループセッションが可能となるよう工夫をしているが、全てのグループの様子はウェブからは分からない。また、対面であればその場の雰囲気、肌で感じるものがオンラインでは伝わりにくいということもある。
- ・ ある学生は、オンラインでやったときに、全部のコメントをこちらで集約して、それをもう一度学生に配信したところ、対面では話せなかったことが話せたり、交流できなかった意見が交流できたのでよかったという意見もある。そのため、本当にその授業等で何を狙いにして、どのような受講者がいるかによっても変わってくるかと思う。

## (2) その他

#### 事務局)

- ・ 事務局にて、議事録を作成後、委員の皆さまに確認していただき、公開させていただく。

## 3. 閉会